

大日影トンネル遊歩道と桃の花、 あるいはほうとう その1

東日本建設業保証株式会社
建設産業図書館
江口知秀
Tomohide Eguchi

当 館の利用者の渡辺さんは私の仕事の足しにと、定期的に新聞の切り抜きをお持ちくださるので、ずいぶん助かっている。その切り抜きの中で、「迷宮トンネル」と題された小さな記事が目にとまった。レールが敷かれた青い照明のトンネルの中で、待避所らしき壁のくぼみが暖色ライトに照らされて浮かび上がり、そこに据えつけられたベンチで女性が本を読んでいる。普通では考えられない、タイトルのとおり幻想的な写真だ。

これは山梨県甲州市のJR勝沼ぶどう郷駅のすぐそばにある、大日影トンネル遊歩道の写真だった。もとは中央本線の鉄道トンネルだったが、平成九(一九九七)年に廃止となり、当時の勝沼町に無償で譲渡され、平成十九年に遊歩道として無料で開放された。

このトンネルは、全長が約一・四キロメートルあり、人道トンネルとしては、なかなか長い。しかも、不思議なこと写真には延々とレールが写っている。廃止となった鉄道施設が、遊歩道として整備される場合、歩行者の安全が考慮されてレールなどの障害物は撤去されるが、ここは保存活用の考え方が異なるらしい。

そういえば毎年四月の中旬、甲府盆地は桃の花で

ピンク色に染まると聞いた。果樹栽培で有名な甲府盆地の農家の桃が、いつせいに花を咲かせるからだ。しかも、勝沼といえば日本有数のワインの聖地でもあるし、土地柄としては最高だ。ぜひ、大日影トンネル遊歩道に行ってみようと思いい立ち、四月中旬のある日、私は同行者とともに勝沼ぶどう郷駅に降り立った。

すがすがしい春の陽気に包まれた勝沼ぶどう郷駅は、地元の方々が植えてたという満開の桜に囲まれていた。東京・横浜は葉桜になってしまったのに、こちらは開花が遅いのだろうか。期せずして美しい桜並木に迎えられたが、今回の目的はあくまで桃だ。うわさに聞いたピンクの絨毯はどこにあるのか。甲府盆地の外輪山の腹にある駅前からは、盆地をある程度見渡すことはできるが、はるかむこうが、なんとなく桃色に染まっている気がするだけで、よくわからない。とりあえず、大日影トンネル遊歩道を抜けてから、桃の花を探し求めて歩いてみよう。ついでに、いくつかワイナリーレストランがあるから、ワインを飲み比べてみよう。日本酒だろうがワインだろうが、酒どころに来ると、心が湧き立って仕方がない。

そうこうしているうちに、駅前にお年寄りのグル

ープが集まりはじめた。装備からすると、これからウォーキングへ出発するのだろう。先にトンネルへ入られたら大変だ。狭い坑内では数十人のグループを追い越すのは一苦勞で、トンネルの予定所要時間三〇分を大幅に過ぎてしまうかもしれない。なにより、昼飯の時間に差し障る。地図で確認したかぎり、大日影トンネル遊歩道への入口は駅からすぐのはずだ。道標を確認しながら、さっさと向かうことにした。



大日影トンネル遊歩道 勝沼側の入口

[交通] JR勝沼ぶどう郷駅より徒歩5分